

第二二三回ペン川柳会

令和四年十二月二十六日

お題 「降・降りる」

■ 八木 (明迷) めいめい

路地裏の飲み屋で愚痴る降格類  
雨降りを真っ先に言うハゲ頭

■ 稲宮 (井波) いなみ

目がきれいマスク降ろすな今がいい  
ライバルが降りた夢見て飛び起きた

■ 安藤 (晃二) てるつぐ

深酒で降車は高尾の車止め  
記者会見任務まっとう降りません

■ 西川 (酔雅) すいが

麻雀で学んだ人生降りる味  
降りる駅忘れ乗り越し呆けを知る

■ 塚田 (拿々) だだ

ボス変わり人事考課は急降下  
まだ高い！降圧剤の効き目なし

■ 浜田 (我々好) ウイスキー

定年で関白降ろされいまは地下(ぢげ)  
やめとけよ降嫁したんだパラッチ

■ 大野 (だし)

降誕祭今年コロナで降参祭  
降るほどの愛情見せた新演劇

■ 曾山 (酩帝)  
めいてい

われどこで降って湧いたかもう八十路  
居酒屋で僕の降誕祝います

■ 三春 (火酒)  
ウオッカ

降板も痛痒ないさ死人役  
産婆事故キリスト降誕遅延あり

■ 山縣 (安兵衛)  
やすべえ

寄る歳やだが絶対に降りないぞ  
降る雪の雨になりたる時雨かな

世話人 塚田 實 (拿々)  
だだ